

令和8年度 人吉球磨在宅症例カンファレンス

概要報告

日時 毎月 第2水曜日 18時00分～19時00分

方法 Zoom ミーティング（各回のミーティング ID とパスコードは当日までにメールで送ります）

参加 在宅ケア・医療に興味のある専門職 申込不用

令和8年度
上半期スケジュール

4月15日

外山胃腸病院 外山 裕二 医師

【概要】 参加者 21 名

高齢の誤嚥性肺炎のリスクの高い 2 症例をもとに誤嚥性肺炎の予防と介入について議論された。言語聴覚士の中村舞氏(堤病院)から在宅における口腔筋力訓練などのリハビリテーション手法についての助言もあり最適なケア・管理について知見を深めた。

5月13日

大草医院 ころ吉訪問診療所 大草 知子 医師

【概要】 参加者 12 名

90 代女性・要介護 5 の症例。本症例では在宅療養の三本柱（家族の協力・医療チーム・介護福祉チーム）が揃い本人の希望する在宅での生活を実現できた。また ACP において、延命治療の内容は一律ではなく、病状・生活状況・本人の価値観に応じて経時的に変化するため、定期的な話し合いが不可欠だと示された。在宅医療はこれまでの臨床経験の集大成であり、内科・循環器・小児・緩和など専門領域を横断した総合的な医療実践が求められると語られた。

6月10日

居宅介護事業所 龍生園 山富 涼子 様

【概要】 参加者 10 名

2 症例を紹介。1 症例目は 80 代男性、脳疾患により右半身麻痺。リハビリに対して強い意欲を示し在宅での生活を希望。ケアマネとして本人の「やりたい」をひとつでも実現できるように支援している。
2 症例目は 80 代男性、独居生活。体重減少、アルコール・パチンコに依存、暴言、セクハラ行為などの問題を抱えており、最終的に精

神科病院へ入院となった。参加者たちで両症例について意見交換を行い、在宅支援における課題、職種間の連携の重要性、人権保護の観点、そしてサービス提供者の安全対策について議論した。

7月8日

あさぎり町地域包括支援センター 濱本 世津江 様

【概要】 参加者 15 名

80 代の母親と 2 人の息子(長男と次男)が暮らす家庭。長男の無関心、次男の被害妄想と自立困難性があり、家庭環境の悪化(ゴミ屋敷)など複数の問題が顕在化している。家族の本意と本人の希望を重視した重層的支援の重要性について議論し、医療機関との連携や在宅医療の拡充の必要性について意見交換した。

8月19日

訪問看護ステーション「たいよう」 愛瀬 真由美 様

【概要】 参加者 15 名

30 代の筋ジストロフィーの症例報告。呼吸不全にて NIPPV 装着し管理中。本人、家族の ACP を定期的に確認し会議の中で関係者と共有している。病状悪化時の緊急時対応についても協議されており、介護士・家族への BLS 研修や消防署と DNAR について面談する予定が組まれている。参加者からは情報共有ツールの意見や救急隊との連携の利点、本人、家族の意思の尊重、心理的ケアの重要性について言及があった。

9月9日

人吉こころのホスピタル認知症疾患医療センター 松田 康子 様

【概要】 参加者 11 名

アルツハイマー病の抗体治療の現状と課題を報告した。抗体治療開始以降、若い年齢層の受診が増え、初診の待機期間が延びていることや、治療を希望する患者への診断・支援の難しさの説明があった。また、具体的な症例を通して治療効果や心理的サポートの重要性や、社会的フォローアップ(仕事継続や地域活動への参加)を地域資源・機関と連携して整えることの必要性を強調した。

【共催】 在宅支援センターだんだんなぁ / 人吉球磨在宅医療介護連携推進事業 / 人吉球磨在宅ドクターネット

【問合せ先】 hitoyoshi.zaitaku1101@gmail.com (在宅支援センターだんだんなぁ)